# ホンモノに触れる歴史出前授業

## 土器や民具の手触り、遺跡の壮大さから歴史を体感！

樹齢約900年の平沢弥陀の杉。守り伝えられてきた巨杉の前で地域の歴史に思いを巡らせます。

町教育委員会では、各小学校の社会科や総合学習の時間にあわせて「歴史出前授業」を実施しています。各学校からの依頼を受け、教科書などで学んだことの掘り下げや、郷土愛を育むことなどを目的として行なっているものです。歴史出前授業は、①町教育委員会の文化財担当職員による身近な地域の歴史にまつわる解説や、②遺跡から出土した土器や石器、町内の家に伝えられてきた民具など「実物」の歴史資料に触れ、③古墳（こふん）や城館（じょうかん）などの遺跡、道ばたの碑など「現地」を訪れることが特色です。授業の進め方は、担当の先生と事前によく相談をしながら計画を立てています。

町では、千数百点の民具や古文書、数万点の遺跡出土品など膨大な数の文化財を収蔵しています。教室で授業を行なう場合は、この中から授業の理解に役立つ資料を選んで持ち込みますが、子供たちが実際に町の文化財整理室を訪れて収蔵庫の中を見学することもあります。また、古墳や城館跡へ出かけていって遺跡の壮大さを体感したり、縄文時代のムラの遺跡で土器や石器を採集するフィールドワークにも取り組みます。

実物や現地でホンモノに触れることは、子供たちの興味関心を段違いに高めます。収蔵庫でいくつかの土器を見学した後、「ここに積まれたコンテナのすべてに発掘した土器や石器が入っています」と話すと、子供たちが目を輝かせる様子が見られます。遺跡へ出かけていくと、子供たちからは様々な疑問や質問が飛び出します。ホンモノに触れ、体で感じながら昔の暮らしをイメージしてみることで、新たな発見や気づきが生まれるようです。

授業終了後、子供たちから授業を担当した職員へお礼の手紙が寄せられることがあります。一生懸命書いた文章にイラストを交えながら綴られる“学び”は、子供たちが地域の歴史と直に向き合った証です。教科書や本に書かれた日本や世界の歴史と、自分たちの地域の歴史が確かにつながっていると知ることは、世界の歴史や文化の多様性を知り、互いを認め合う心を育むことにも繋がるのではないでしょうか。これからも町内にあるたくさんのホンモノに触れ、多くの学びを得たり感性を磨くことにつなげてほしいと思います。

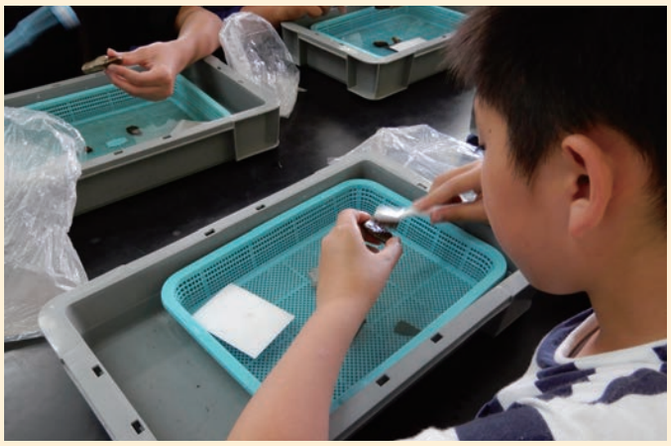
## ホンモノに触れる歴史出前授業 －土器や民具の手触り、遺跡の壮大さから歴史を体感！－

ずらりと並べられた様々な民具。知らない道具に興味津々。

これは何だ？ 初めて見る道具に子どもたちの疑問が噴出。

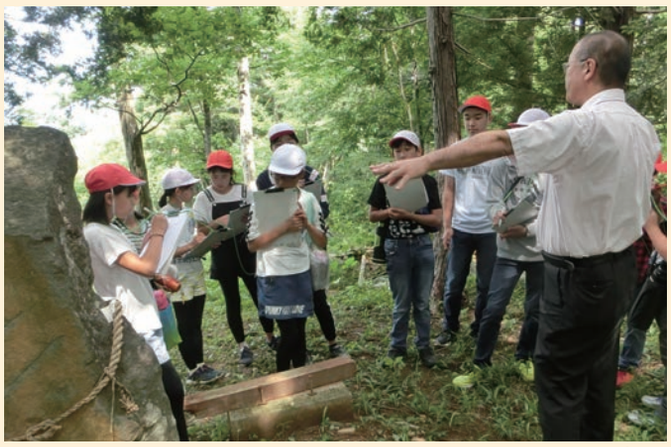
商店の看板。文字を右から書いていたことにみんなびっくり。

遺跡での土器採集。これはいつ頃の土器かな？



土器の洗浄体験。傷つけないよう優しく丁寧に泥を落とそう。

たくさん並んだ谷地遺跡の出土品。土器を触ってドキドキ!?



東根古墳群。墳丘を登ってみると、頂上には神社の石碑が!?

兵衛館跡。砦の遺構を歩いて、城攻めが出来るか挑戦！

## 文化財見聞録

# 世代を超え受け継がれる民俗芸能 －刈田嶺神社神楽－

今年も刈田嶺神社神楽が1月14日の暁祭で奉納されました。奉納日に向けて、例年同様に11月頃から約2か月間、根方生活センターで練習が重ねられました。神楽組には現在、16人の組員が所属して活動しています。神楽組の組員は、その地区に在住する男性で構成されることがほとんどでしたが、近年の刈田嶺神社神楽組では地区外の人や女性が参加しているのが特徴です。小学生の頃から神楽に携わり、今年で約30年目という方も在籍しています。神楽組代表の方によると、最近では子供神楽の経験者が大人になった現在も神楽組に加わっているため、楽器の扱いや舞の所作の基礎ができている人が多いとのことでした。また、作法は口頭や身ぶりで伝えられる口伝のため、人によって所作に若干の違いがでてくるものの、最近は動画での記録があるために教えやすくなったそうです。

神楽の特徴のひとつとして、舞の登場人物を表現したお面が挙げられると思います。木彫りで作られたお面ですが、実は目を覗かせる穴がとても小さく、舞台では視界が悪い中で動かなければなりません。刈田嶺神社神楽の番組（演目）の一つに「春日舞」があります。二柱の神と2匹の鬼が登場し、舞台上で悪戯をする鬼たちを神様が追い払うという流れなのですが、舞の最後で神様役の一人が舞台の天井に張られた注連縄を太刀で斬る場面があります。お面をつけ視界不良のなかで動くため、太刀が縄を斬ることなく空振りしてしまうこともあるのだとか。年に一度の本番だからこそ起きる出来事も、神楽を現地で楽しむ際のポイントかもしれません。

「春日舞」の一幕。終盤に太刀で天井の注連縄を切る。

## 文化財Q&A

### 遺跡地図にある遺跡の範囲はどうやって決めているの？

町内には約200か所の遺跡が発見されており、その範囲は遺跡地図で皆さんへお知らせしています。遺跡の範囲は、土器片などの遺物が見つかった範囲や地形をもとにして決められています。ただし、地下に当時の人々の生活の痕跡である住居跡などの遺構が残っているかどうかは実際に掘ってみないとわかりません。つまり遺跡地図に書かれた範囲は、発掘調査で確認した場合を除いては「この辺までが遺跡の可能性がある」という範囲なのです。そのため、地表に遺物などが無くても掘ってみたら遺跡が見つかることもあれば、その逆もあります。

遺跡の調査方法には様々なものがありますが、主なものには現地を実際に歩いて地形や地表面の遺物の有無を調べる「分布調査」、部分的な発掘で地下の遺構や遺物の有無を調べる「確認調査」、広い面積を発掘して遺構や遺物を詳細に調べる「発掘調査」があります。こうした調査の結果をもとに、新たな遺跡を追加したり、範囲の見直しを行ったりして遺跡地図の内容を改訂しています。

さて、「蔵王町遺跡地図」に記された200か所の遺跡は、地域の歴史や文化を伝える貴重な文化遺産として文化財保護法に基づく保護の対象となっており、遺跡の範囲内とその隣接地で工事などを行う場合には事前に協議・届け出が必要です。町教育委員会では、県教育委員会などと連携して開発事業と文化財保護の両立が図られるよう調整を行っています。早期にご相談いただくことで、計画をよりスムーズに進めることができる場合がありますので、工事などの計画がありましたらまずは遺跡との関りについて町教育委員会へお気軽にご相談ください。

※「蔵王町遺跡地図」は町教育委員会（ございんホール窓口）で配布しているほか、町文化財ホームページでもご覧いただけます。

## 発掘速報

青麻山東麓での活動を示す縄文時代の土器などが出土！

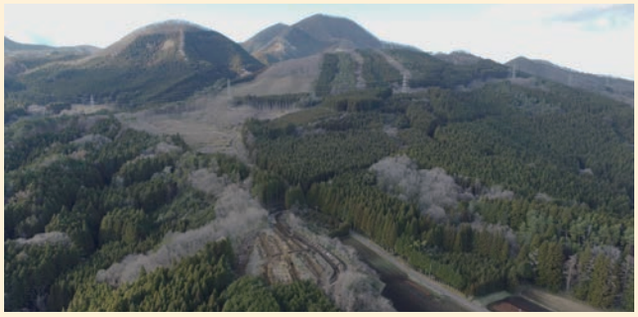
# 遠森山下遺跡 隣接地

遠森山下遺跡は宮地区の青麻山東麓にある遺跡です。今回、遺跡に隣接する小丘陵で開発事業が計画されたことから、現地の表面踏査を実施したところ、新たに土器片の散布と塚状遺構を確認しました。さらに地下の状況を調べる確認調査を実施したところ、少数の縄文土器と石器などが出土しました。

縄文土器は縄文時代前期（約6,000年前）のものです。今回の調査では住居跡などの遺構は確認されませんでしたが、当時の人々の何らかの活動があったことが分かりました。青麻山東麓には、このような小規模な遺跡が数多く未発見で眠っていると考えられ、集落外での活動の様子を知る手掛かりとして重要です。

塚状遺構の詳細は不明ですが、古代末期から中世の経塚などの可能性があります。

今回確認した塚状遺構は、工事区域から除外して現状保存した上で事業が進められることになりました。



調査地点の空撮（中央手前が調査地点、奥が青麻山）

出土した縄文時代の土器と石器

## 文化財トピックス

### 町民撮影の『蔵王エコーライン開通』の写真が切手に！

県政１５０年記念切手シート発売

この2月16日で県政施行150年を迎えた宮城県。この大きな節目にあたり、県政150年の歴史をテーマとした記念切手シートが発売されました（限定1.000シート。現在は入手困難）。県政発展を象徴するできごとを紹介した10枚の切手の中に、『昭和37年　蔵王エコーライン開通』が取り上げられています。

蔵王エコーラインは、戦後復興から経済発展期の国策ともいえる大事業であり、わが町の、ひいては県の経済発展にとってきわめて重要な役割を担いました。

切手の図柄に使われた写真は、遠刈田温泉地区在住の登山愛好家・小島亮治さん（故人）が、エコーライン開通当時に撮影したものです。蔵王町の地域住民の手による写真で県政150年の歴史に華を添えられたことは、とても喜ばしいことです。

上：発売された記念切手シート
左：小島亮治さん撮影の写真を用いる『蔵王エコーライン開通』の図柄

**最新の情報はＷＥＢでチェック！！**

**蔵王町の歴史と文化財 公式ホームページ**
**どきたんドットコム　http://www.dokitan.com**

**蔵王町の歴史と文化財　どきたん通信　No.005**
令和4年（2022年）3月発行　［不定期発行］
蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係
〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦５番地
TEL 0224-33-2018　FAX 0224-33-2019
E-Mail info@dokitan.com　WEB http://www.dokitan.com